

# 令和4年度 第2回中部地方整備局ダム事業費等監理委員会及び部会

## 議事要旨

日 付：令和4年8月24日（水） 13：30～17：15

場 所：AP名古屋7階 Lルーム

出席者：松尾委員長、内田委員、小川委員、豊田委員、松本委員  
各部会構成員

- 次 第：
1. 開会
  2. 挨拶
  3. 議事
    - 1) ダム事業費等監理委員会
    - 2) ダム事業費等監理部会
      - (1) 新丸山ダム建設事業部会
      - (2) 設楽ダム建設事業部会
      - (3) 天竜川ダム再編事業部会
      - (4) 三峰川総合開発事業部会
  4. 議事要旨の確認

### 1) ダム事業費等監理委員会

いただいた意見：

※意見なし

### 2) ダム事業費等監理部会

いただいた意見：

#### 【全事業共通】

- 社会経済情勢に変化が生じる中、年度毎の執行状況を踏まえ、現計画に対して事業費・工期の増減となる要因やそれらの今後の見通しについては、事業監理にも適切に反映できるよう明らかになったことから説明されたい。
- コスト削減の示し方については、総事業費に対する削減効果や各年度予算への反映状況を示すなど、表現方法を工夫し分かりやすい資料とされたい。
- 他ダムの事例や他事業での知見等も踏まえて新技術を活用するとともに、生産性向上並びに社会的課題の解決につながる、更なる新技術の開発にも取り組まされたい。

#### 【新丸山ダム建設事業部会】

※個別意見なし

#### 【設楽ダム建設事業部会】

- 付替道路については、早期に供用できるよう着実に整備を進められたい。併せて、供用の見込みも可能な限り早く示されたい。

#### 【天竜川ダム再編事業部会】

- 全体工程における各項目（p7）と各年度予算での実施内容における各項目（p10、p15）の関連性が分かるように示されたい。

#### 【三峰川総合開発事業部会】

- 事業完了に向け、現計画内の事業費に収められるように、執行監理を適切にされたい。

#### 主な質疑

##### 各事業共通

- コスト縮減や工期短縮だけでなく、社会的課題の解決、即ち SDG s につながる新技術についても、さらなる技術開発を進められるような取り組みをされたい。
  - 橋梁では、ライフサイクルコストを考慮して構造から変更することも考えられる。事業完了後も維持管理のための費用が継続的に必要となるため、イニシャルコストのみならずランニングコスト縮減の方策も検討されたい。
- ⇒引き続き、新技術、コスト縮減につながる方策を検討していく。

##### 新丸山ダム建設事業部会

- 全体事業費に対し、予想していなかった項目は純増として増えており、全体事業費に影響がないのか。
- ⇒新丸山ダム建設事業は工事を進めながら調査設計を実施しているため、不確定な要素があるため、現時点では現計画への影響を明確に示すことが難しい。今後、検討や精査を進め、現計画に対する影響をできるだけ早くとりまとめ、本委員会でご意見をいただけるように努めていきたい。
- 用地補償費について、令和4年度は令和3年度から予算額が減っているが、予算執行に問題はないか。
- ⇒用地補償費のうち関西電力の発電所の補償に関わる部分は、工事工程に合わせて必要な予算を計上しているため、毎年同じ額ではなく年度によって予算は増減することとなる。
- 働き方改革もあるが、ダム本体工事はⅡ期工事と続いていくので、技術的にも早くコスト縮減を考えていかないと間に合わないと思う。発注者と工事受注者が連携して、新技術開発するなど努力する体制を作っていただけるとよい。
- 新丸山ダムの水位上昇、流量増加等は発電量増加に寄与するのか。寄与した場合どうなるのか。減電補償が戻ってくること等があるのか。
- ⇒ダムの水位上昇によって発電量が増加になるため、建設費においては、関西電力に費用の一部

を負担していただいている。発電所の補償工事により発電できなくなった分の補償であり、実績で精算している。

○働き方改革を実施するためには仕事の仕方改革・生産性向上策・DXの本格的取組等が絶対条件であり、それぞれどのような具体策を考えているか。

⇒働き方改革等を踏まえ、ダム本体工事は完全週休二日で行っている。また、合わせて現場の作業時間については、地元の方々のご意見を丁寧に聞き調整しながらやっている。建設DXの取り組みとしては、3次元データを活用したコンクリート打設の自律施工や無人の重機による敷き均し等を工事受注者と工夫しながら、生産性向上の取り組みを検討している。

### 設楽ダム建設事業部会

○令和3年度の付替道路関係の先送り減について、現在も林業関係者から合意は得られていないのか。また、具体的になぜ合意が得られていないのか。

⇒現時点で合意は得られていない。林道は、土地を買収して整備するものではなく、付替林道上の立木の補償と付替林道によって山林としての利用を制限することによる損失の補償を行っている。現地は複数の土地名義人の所有で相続も発生している土地もあり、土地の境界確認および林道ルートの合意等に時間を要している。

○計画変更により総事業費の増額、工期の延伸が行われることとなったが、地域の方々に説明した際の反応はどうであったか。

⇒事業費の増額については、特段の意見は出ていない。一方で、工期の延伸については、落胆の声が多い。そのため、少しでも早く完成できるよう工期短縮に取り組むとともに、AR技術などを活用し、現地で完成した未来の姿をイメージしていただくことも重要だと思っている。

○令和3年度で先送り減となったものは令和4年度での実施となり、先送りした項目の当初予算は前年度比で増額となるのではないか。

⇒年度ごとに実施内容が異なるため一概に前年度より増額になるということではないが、令和3年度から令和4年度への先送り分は令和4年度予算に含まれる。

○ダム左岸の建設発生土受入地の利用が計画されていたが、今回の工期延伸により遅れることとなった。同様に地元で計画されているもので遅れるものはあるのか。あるならばできる限り早く供用できるようにするとともに、どれくらい遅れるのか示してほしい。

⇒他にも建設発生残土を活用して公園を整備する計画があり、これも遅れることになる。早期に見通しを示せるようにする。

○事業の全体工程（p8）では付替道路の工程も示してもらえると良い。

⇒今後、付替道路の工程も含めて示すようにする。

○当初の基本計画策定から14年のうちに1,130億円も工事費が増加し、12年もの工期の延伸をしているという現実を厳しく受け止め、他ダムの事例や他事業での知見等も踏まえ、工期短縮・

コスト縮減といった取り組みを組織内で当たり前となるように取り組んでいただきたい。

#### 天竜川ダム再編事業部会

○令和3年度当初予算と令和4年度当初予算がほぼ変わらないが、令和4年度に実施としている秋葉ダムのスルーシングの予算は見込んでいるのか。

⇒秋葉ダムのスルーシングについては既存施設の運用変更で実施するため、令和4年度の予算額は小さい。なお、水位を下げることで周囲の構造物に影響する場合には、対策工事の実施が必要となる。

○全体工程（p7）によると令和5年度から堆砂対策施設及び管理設備工事が実施されるため、令和5年度の予算額は大きくなるのか。

⇒現時点で次年度の予算額は明言できないが、事業工程のとおり進めて行くためには、今後、予算規模は増加していく見込み。必要な予算を確保出来るように努め、事業を進めて行きたい。

○コスト縮減（p20）した額は、令和4年度当初予算の時点で反映されているのか。

⇒令和4年度当初予算はコスト縮減を見込んだ額である。

○全体工程における各項目（p7）と各年度予算での実施内容における各項目（p10、p15）の整合がとれていないように見える。

⇒内容について確認し、整合した資料として示せるようにしたい。

○これまで実施してきた置土の知見から、シミュレーションなどにより置土の影響を想定できるのではないかと。置土実験はいつまで実施するのか。

⇒出水時に土砂が想定どおり流下するかという観点での置土実験は終了している。また、シミュレーションによる影響予測も実施済みである。現在は段階的に置土量を増やしながら河床への堆積や環境への影響等を確認するとともに、ダム下流への土砂還元のために置土を実施しているところ。今後も引き続き、年間28万m<sup>3</sup>の置土実施に向けて段階的に置土量を増やしながら検証及び下流への土砂還元を続けて行く予定。

○吸引工法とベルトコンベアを用いた置土を比較した際に、ベルトコンベアでは維持費がかかると思うが、それを含めた工法変更の判断なのか。

⇒イニシャルコストではベルトコンベアを用いた置土が安価であり、LCCで比較した場合は吸引工法が安価であるため当初は吸引工法を採用していたが、実証試験の結果実現困難との結論に至った。このため、実現性を含めて改めて検討し、ベルトコンベアを用いた置土工法を採用している。

○全体の最終的な工期・工事費を早く決めていただきたい。

⇒現在地質調査や現場条件等の把握により設計・精査を進めており、早期に工期・工事費を示すことが出来るよう務める。

- 工期がまだ残っているので、働き方改革を実施するためには仕事の仕方改革・生産性向上策・DXの本格的取組等が絶対条件である。それぞれどのような具体策を持っているか。
- ⇒現在実施している実施設計の中で3次元設計を進める事で仮設の配置などが効率的になると考えている。また、今後工事施工段階においても、より生産性が向上出来るような取り組みについて受注者と協議をしていきたい。

### 三峰川総合開発事業部会

- 事業完了まで残り僅かとなっている中で、今後、浚渫やモニタリングに問題が生じた場合、現計画の事業費に収まるのか。
- ⇒浚渫のコスト縮減などに努め、現計画の事業費に収まるよう対応していく。
- 事業完了後も維持管理のための費用が継続的に必要となる。引き続きランニングコスト縮減の方策を検討されたい。
- ⇒ご意見頂いたとおり試験運用においてコスト縮減となる方策を検討していきたい。

以 上